

○ 委員長報告

6月定例会本会議で報告された建設委員長報告は、以下のとおりです。

平成26年6月定例会

建設委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、「瀬戸内しまなみ海道スポンサー事業」等についてであります。

このことについて一部の委員から、しまなみ海道自転車道の無料化の実現に当たって、まずは理事者のこれまでの地道な努力に敬意を表したい。については、今回の無料化の関連事業として開催するフォーラムはどのような内容か。また、「瀬戸内しまなみ海道スポンサー事業」について、企業の応募状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回の無料化や国際サイクリング大会の開催等により、しまなみ海道が盛り上がりを見せる中、この機運を県下全域に広めるため、5地区の各地方局・支局単位で安全・利用促進協議会を立ち上げることであり、各地区の協議会のメンバーなどを対象に、自転車に関するフォーラムを開催する予定である。自転車関係の有識者を招いて開催するこのフォーラムにより、参加者にサイクリングに関する知識を持っていただくとともに、地域ごとにさまざまな自転車施策を展開していくこととしている。

また、スポンサー事業については、主に県内企業で、一部県外企業も含む計11者からの応募があり、広告看板のデザインを含め、現在審査中である。県としては、これらの広告収入を、自転車道の無料化に伴い必要となる本県の負担額に充てることとしている旨の答弁がありました。

なお、このことに関連して一部の委員から、看板については、しまなみ海道の景観にも配慮した魅力あるデザインにしてほしいとの要望がありました。

第2点は、大洲・八幡浜自動車道の整備についてであります。

このことについて一部の委員から、大洲・八幡浜自動車道の整備の現状と今後の見通しはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、現在、「八幡浜道路」と「夜昼道路」において事業

を進めているが、「八幡浜道路」については、6月末時点で、用地買収は約94%、工事発注は約54%の進捗率で、平成30年度の完成を目指している。今年度は、本線道路改良工事やインターチェンジ工事を進めることとしており、来年度には、松柏トンネル工事を発注する予定である。

また、「夜昼道路」については、昨年度、新規事業化され、現在、地形測量を終え設計を進めているところであり、引き続きトンネルや橋梁の詳細設計を行う予定である。本年8月以降には、順次、地元への説明会を開催後、用地測量を行うこととしており、来年度からは用地買収を開始し、できるだけ早く工事に着手できるよう努めていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、県道肱川公園線の大規模土砂崩れについてであります。

このことについて一部の委員から、6月29日に発生した大規模土砂崩れにより、県道が全面通行止めになり、現場近くの河成小学校の児童は通学できなくなっている。今回、雨が降ったわけではないのに土砂崩れが起こったことから、地域住民は大きな不安を抱いているが、県はどのように復旧作業を進めていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今回発生した大規模土砂崩れは、崩落規模が、高さ50m、延長50m、土量約4,000m³であり、崩落斜面の上部には、不安定な岩塊等が確認されており、現在も小規模な落石が続いていることから、直ちに崩落土砂の撤去ができない状況である。

現在、現地調査を行うとともに、対策工法を決定するための測量やボーリング等の準備を行っているところである。大規模な崩落のため、地質調査や対策工法の決定に期間を要することや、現場が切り立った斜面であることから、対策工事にも長期間を要することが予想されるが、仮設防護柵の設置等により、1日も早い交通規制の解除に努めていきたい旨の答弁がありました。

なお、このことに関連して一部の委員から、県は、地域住民に対して、積極的に復旧見通し等の情報提供を行うとともに、河成小学校の児童のためにも、速やかな復旧活動を進めてほしいとの要望がありました。

このほか、

- ・道路の防災及び老朽化対策
- ・県営住宅の家賃滞納者に対する提訴
- ・木造住宅耐震化の促進

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。